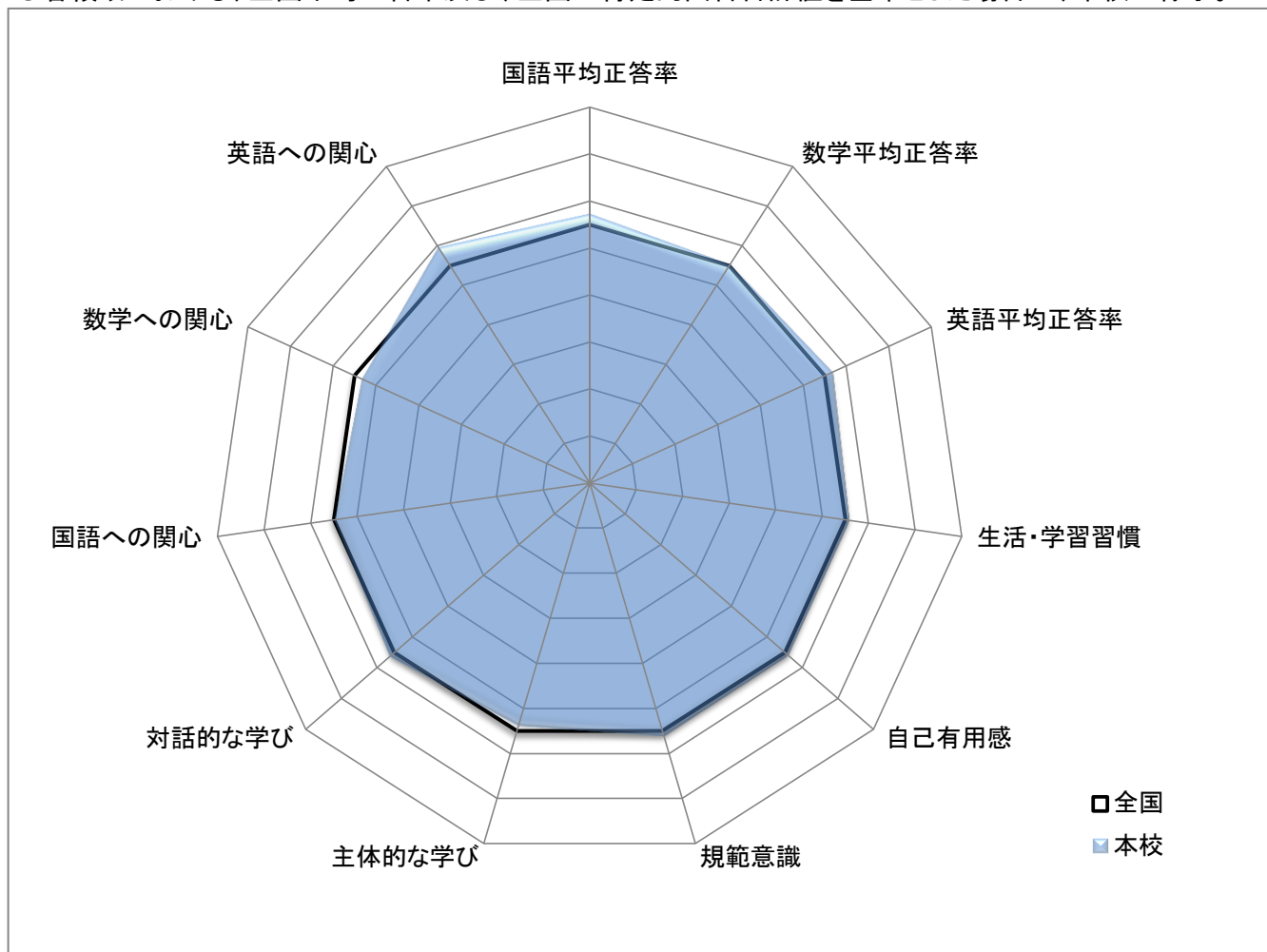


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

どの教科も平均正答率が全国平均を上回っている。これも、教員の日常の指導のたまものである。特に、年間を通して行われている、補習教室や質問教室により、中間層の生徒が向上したものと考えられる。また、ICTを活用した授業を日々展開していることで、生徒の興味・関心・意欲が高まったことも要因の一つである。今後はさらに上位層を伸ばすだけでなく、日ごろの学習習慣を身につけさせ、さらに正答率を向上させていくことが課題である。

《授業改善のポイント》

本校では、ICTの活用を図るために、年間計画のもと、授業研究を文系・理系・実技系で実施している。そこで授業方法について互いに堅守し、それを自身の授業に活かしている。また、教科部会を中心に、進度や指導方法の工夫改善を図っている。そのことが、授業改善につながり成果として表れている。今後は、講師を招聘しながら教員一人一人の授業力向上を図っていく。

《チャートの特徴》

本校の生徒は、何事にも意欲的であり、基本的な生活習慣がほとんどの生徒が身につけている。また、対話的手法を用いた授業を展開していることで、生徒の自己有用感・満足感が全国平均を上回っている。特に、英語においては、授業の中でコミュニケーション能力を高める指導を行っているので、生徒も興味・関心・意欲が高く、結果としても良い結果として表れている。今後は、数学への意欲を持たせるように、少人数指導を充実させ、さらなる向上を目指す。

《家庭・地域への働きかけ》

基本的な学習習慣は、まず家庭学習からという本校の目標を果たすために、保護者会や進路説明会等で働きかけている。また、小・中連携において中学校で必要な知識について小学校に説明し、入学までにできるよう依頼している。